

地域安全学会・東日本大震災連続ワークショップ 2018 in 南三陸を共催し、発表等に 参加しました(2018/7/29-30)

テーマ：東日本大震災、災害科学
場所：南三陸町役場（宮城県南三陸町）

7月29日(日)～30日(月)に、2017年に高台で建設された南三陸町役場の新庁舎において、地域安全学会「東日本大震災連続ワークショップ2018 in 南三陸」が開催され、当研究所は南三陸町とともに共催者となりました。同学会では、東日本大震災を契機とした今後の復興と防災について、被災地の現場で議論を深めていくことを目的として、通常の研究発表大会とは別に、同ワークショップを開催しています。これまで、2012年に福島県いわき市、2013年に岩手県大船渡市、2014年に岩手県宮古市、2015年に宮城県気仙沼市、2016年に宮城県石巻市、2017年に岩手県釜石市で開催してきており、当研究所は共催者となっています。今回の宮城県南三陸町でのワークショップは第7回目で、約30名が参加し、活発な意見交換が行われました。

また、今回のワークショップの企画・運営は、地域安全学会東日本大震災特別委員会委員長である当研究所の村尾修教授（地域・都市再生研究部門）、同委員の佐藤翔輔准教授（情報管理・社会連携部門）、杉安和也助教（リーディング大学院）、寅屋敷哲也助教（人間・社会対応研究部門）が主に担いました。

29日には、まず、南三陸町長による町の復興状況についての基調講演が行われ、その後、研究発表が行われました。当研究所教員が執筆者の8件の研究発表があり、このうち、丸谷浩明教授（人間・社会対応研究部門）、佐藤健教授（情報管理・社会連携部門）、佐藤翔輔准教授（情報管理・社会連携部門）、杉安和也助教（リーディング大学院）、が登壇しました。各発表者の講演題目等は次の通りです。

- 丸谷 浩明・寅屋敷 哲也*：東日本大震災の被災企業調査も踏まえた熊本でのBCP策定支援
佐藤 健：東日本大震災による南三陸町における医療施設の被害と医療救護活動
佐藤 翔輔・川島 秀一・今村 文彦：気仙沼市における震災遺構の成立プロセスの整理と考察
杉安 和也ら：津波避難時の誘導を目的としたUAV活用方法の検討
新家 杏奈・佐藤 翔輔・川島 秀一・今村 文彦：陸前高田市と気仙沼市の津波伝承の状況とその効果
浅利 満理子・佐藤 翔輔：石巻市南浜・門脇地区における震災学習プログラムの変化の事例を通じたソフト/ハードの震災伝承実践の統合的議論に向けた検討
藤本 慎也・佐藤 翔輔*ら：宮城県名取市における東日本大震災被災者に対する伴走型支援提供に関する検証：名取市現況調査4年分のパネルデータから
松川 杏寧・佐藤 翔輔*ら：災害ケースマネジメント手法のキーワード分析—名取市生活再建支援の現場から—

※ 著者名は、筆頭者と研究所構成教員（下線）のみ記載
* は、災害科学国際研究所・共同研究プロジェクトの助成による

翌30日には、南三陸町・女川町での現地見学会が行われました。

まず、南三陸町の見学会では、南三陸ホテル観洋のご案内により、①戸倉地区、②復興公営住宅、③高野会館、④防災対策庁舎を訪問しました。同ホテルは、震災を風化させないために「語り部バス」に取り組んできており、2017年度にはジャパン・ツーリズム・アワードで大賞を受賞しています。当日は語り部にご同行いただき、当ワークショップ用にアレンジされた「語り部バス」の特別コースで実施していただきました。

続く女川町の見学会では、女川フューチャーセンターCamassにて、NPO法人アスヘノキボウより女川の被災の概要や震災からの公民連携による復興の過程等の説明をしていただき、その後、①JR女川駅、②シーパルピア女川周辺（アスヘノキボウによる支援先の紹介等）をまち歩きしました。



会場の様子



村尾教授（開会の挨拶）



南三陸町長による基調講演



丸谷教授の研究発表



佐藤健教授の研究発表



佐藤翔輔准教授の研究発表



杉安助教の研究発表



寅屋敷助教（司会・進行）



南三陸での語り部バス案内



女川でのまち歩き